

# 酪農教育ファーム活動で 牛乳の好感度上昇と飲用量増加

研究者 株式会社東京辻中研究所（調査会社）：辻中俊樹



## Case 1 酪農体験学習が牛乳飲用に与える影響

### 調査概要

調査年 平成 22 年度

調査対象と活動内容

埼玉県亀久保小学校 5 年生 103 名  
同小学校への出前授業

〔牛との触れ合い、搾乳体験、哺乳体験、  
酪農家の話、バター作り等〕

埼玉県三田川小学校 5・6 年生 28 名  
吉田牧場（埼玉県）での酪農体験

〔牛との触れ合い、搾乳体験、哺乳体験、  
酪農家の話、アイスクリーム作り等〕

酪農体験の前後で、児童の牛乳飲用がどのように変化するかを調査したところ、体験後には、【牛乳が「好き」】と【飲用量】の割合が増加しました。このような変化をもたらした大きな要因としては、乳牛とのふれあいや搾乳体験など酪農体験ならではのメニューに加え、食べ物の大切さを伝える「酪農家の話」に児童が共感したことが考えられます。保護者からも、酪農体験が子どもの食への関心に結びついたとするコメントが多く寄せられました。

## 牛乳の好感度が上昇し、 飲用量が増加

この調査研究は、酪農体験が児童の牛乳飲用行動に与える影響を把握することを目的に小学校 2 校を対象に実施されました。検証のポイントは、体験前後の牛乳の好感度と飲用量の変化と、それらの変化をもたらす要因です。

牛乳の好感度に関しては、2 校とも好感度がもともと高かったため、体験後の大きな変化は期待できませんでした。そこで体験前に牛乳が「好き」「まあまあ好き」と回答した好感層を見たところ、体験後は「まあまあ好き」から「好き」への移動がみられました（表 1）。つまり、酪農体験が「積極的な牛乳好感層」の形成につながったことが考えられます。

次に、家庭内での牛乳飲用量の変化を、牛乳の好感度で「まあまあ好き」と答えた児童に絞って見たところ、亀久保小学校ではコップ「3 杯以上」、三田川小学校では「2 杯以上」の層が増えています（表 2）。両校とも、「1 杯くらい」「1 杯以下」

という牛乳をあまり飲まなかった層が減っていることから、これらの層が「3 杯以上」「2 杯以上」の層に移動したものと思われる。

表 1：体験前後における牛乳の好感度の変化

	(%)	
亀久保小学校（出前授業）	体験前	体験後
好き	58.3	62.0
まあまあ好き	41.7	38.0

  

	(%)	
三田川小学校（牧場体験）	体験前	体験後
好き	50.0	58.3
まあまあ好き	50.0	41.7

表 2：体験前後における家庭内の牛乳飲用の変化（牛乳が「まあまあ好き」の児童）

	(%)	
亀久保小学校（出前授業）	体験前	体験後
3 杯以上	3.3	13.3
2 杯以上	30.0	13.3
1 杯くらい	33.3	23.3
1 杯以下	13.3	10.0
全く飲まない	20.0	20.0

三田川小学校（牧場体験）	体験前	体験後
3杯以上	0	0
2杯以上	0	18.2
1杯くらい	38.5	27.3
1杯以下	38.5	36.4
全く飲まない	23.1	18.2

## 体験後、「酪農家の話」への評価が大きく上昇

酪農体験のどのメニューが牛乳の好感度や飲用量の変化につながったのかを、体験前・後の児童の評価で見てみました（表3）。体験後に大きく評価がプラスに変化したメニューは、2校とも「乳牛とのふれあい」「乳搾り」「酪農家の話」です。逆に、評価がマイナスに変化しているのが、亀久保小学校の「子牛とのふれあい」「乳牛・子牛のブラッシング」などでした。三田川小学校ではマイナスに変化した体験はなかったため、両校が共通して変化した体験メニューを考察したところ、3つの特徴を捉えることができました。

1つ目は、2校とも「乳牛とのふれあい」や「乳搾り」への評価が体験後に上昇したということです。乳牛との一連の体験は、児童の心に大きな意味や価値を残したことが伺えます。

2つ目は、「酪農家の話」の評価が大きくプラスに変化したということです。亀久保小学校では、体験前は体験メニューのなかで最も低い数字でしたが、体験後は2倍以上に評価が上がりました。三田川小学校では、体験前はゼロだった評価が、体験後は14.3%と大きく上昇しました。なぜこれほどまでに「酪農家の話」が児童の評価を得たのか推察したところ、牛乳だけではなくすべての食べ物に感謝していただくことの大切さを酪農家から直接聞き、それに共感したことが大きいと思われます。酪農家の「尊い命をいただいて自分たちは生かされている。だから、食べ物には『いただきます』の気持ちを持ってほしい」という話に、児童の心が大きく揺さぶられたようでした。

3つ目は、亀久保小学校で数字が横ばいあるいはマイナスに変化した「子牛の哺乳」「子牛のふれ

あい」について、三田川小学校ではプラスに変化していることです。これらの体験メニューについて実施状況を2校で比較すると、亀久保小学校では体験人数が多すぎて一人一人がゆっくりふれあうことができていませんでしたが、三田川小学校では一人一人が時間をかけてゆっくりとふれあい、実感を伴った体験ができていました。これらのことから、子牛の哺乳やふれあい体験は、時間をかけてゆっくりと行うことが効果的なことがわかりました。

なお、体験後、保護者にも「子どもの食への関心の変化」についてアンケート調査を行ったところ、2校とも6割以上が少なからず変化したと回答しました。「野菜やお肉、牛乳も、すべていのちあるものをいただいているのだから残さず食べなくてはいけないと思った」「食べることの大切さを教えていただき、その話をしながら食事をするようになった」など、酪農体験が日常生活に結びついたことが伺えるコメントを多くいただきました。

表3: 体験前後における酪農体験の児童の評価

	体験前	体験後
亀久保小学校（出前授業）		
乳牛とのふれあい	35.9	40.8
乳搾り	26.2	45.6
★ 子牛の哺乳	34.0	34.0
★ 子牛とのふれあい	24.3	23.3
酪農家の話	4.9	11.7
乳牛のブラッシング	8.7	0
子牛のブラッシング	12.6	1.0
バター作り	74.8	82.5
DVD「牛乳ができるまで」視聴	13.6	6.8
機械により乳搾り見学	14.6	28.2
三田川小学校（出前授業）		
乳牛とのふれあい	20.7	53.6
乳搾り	31.0	53.6
★ 子牛の哺乳	31.0	35.7
★ 子牛とのふれあい	24.1	25.0
酪農家の話	0	14.3
アイスクリーム作り	72.4	82.1
その他	3.4	7.1

一般社団法人 中央酪農会議 / 酪農教育ファーム推進委員会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-6-1 堀内ビルディング 4F

【TEL】03-6688-9841 【FAX】03-6681-5295

【URL】<http://www.dairy.co.jp/edf/>

【公式Facebookページ】<https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>